

中国古代贈賻制度研究

劉, 可維

<https://doi.org/10.15017/1500461>

出版情報：九州大学, 2014, 博士（文学）, 課程博士
バージョン：
権利関係：全文ファイル公表済

区分	甲
----	---

論文題目 中国古代贈賻制度研究

氏名 劉 可維

論文内容の要旨

中国古代贈賻制度研究

本博士論文の表題に掲げた贈賻とは、喪家に贈る貨財・物品、或いはそのような物を贈る儀礼のことである。本来、贈賻は中国古代における喪葬儀礼の重要な一環であり、喪家とそれ以外の人々との間の人間関係を繋ぐ役割を果たしていた。周知のように、今日に至るまで、それは中国、さらに東アジア世界においても、香典などの形で普遍的に存続している。そして、贈賻の儀礼や内訳は、時代とともに変遷してはいるが、それが人と人との関係を繋ぐ役割を果たしていたということは、変わることなく、今日に受け継がれている。

一方、本来人情の発現としての贈賻は、さらに政治にも沿用され、中国古代において一つの政治制度として整備されていた。中国古代の經典である『周礼』によれば、当時、贈賻の事務を担当する官員が既に設けられていたという。『周礼』の天官 宰夫条には、「凡邦之弔事、掌其戒令、与其幣器財用、凡所共者」とあり、その鄭玄の注には、「弔事、弔諸侯・諸臣。幣所用賻也」とある。これによれば、宰夫は、天子を代わって、死去した諸侯・諸臣を弔い、また、贈賻を贈与することを掌っていたことがわかる。つまり、ここでは、贈賻は既に国家政務の一部と見なされているのである。

国家制度に取り入れられた贈賻は、人間関係を繋ぐ役割を果たすのみならず、政治共同体内部における上下関係と等級秩序を示すものとしての意味をも付与されていた。春秋戦国時代になると、贈賻の儀礼は既に完備されたものとなっており、そこでは、受贈者の身分によって、贈賻の種類や儀礼などの差異が存在していた。また、その後の歴代王朝における贈賻は、基本的に官員の品位等級に基づいて実施されている。つまり、贈賻は、俸禄のように国家から亡くなった官員に与えられる経済待遇の一部ともなっているのである。一方、死者の功績、王朝側の殊遇に基づき、歴代の君主は、より規格の高い贈賻を臣下に賜うこともあった。その場合は、贈賻は恩賞として贈られたものと見てよからう。恩賞は、時代を通じて権力維持の上で大きな役割を果たしていた。君主が、国家を体現しつつ、臣下に対し特例的に贈賻を与えることは、臣下と君主個人との間の服従関係を強化する意味を有しており、この点で贈賻は家父長的権力の基盤という性格をも合わせ保有していた。このように見れば、政治化された贈賻は、国家と官員、皇帝個人と臣下を結び付けるという公私両

面における役割を持っていたことがわかるのである。とすれば、こうした贈賻の贈与が、如何にして歴代王朝において実施されていたのかという点を明らかにすることは、中国古代における政治・社会の問題を考える上で重要な意義を持っていると言えるであろう。

また、周知のように、前漢武帝期に儒家が官学化されて以降、儒家の礼が一段と社会に浸透していくようになり、礼と法との融合が、次第に顕著なものとなっていった。当時、礼典の記述は、司法の現場において案件の判決を左右できるのみならず、立法の過程において法源とされていた。また、西晋の泰始律令には、儒家の礼の思想が国家の法典の内容として大量に吸収されている。これ以降、中国歴代における法典の編纂は、儒家の礼の思想に強く影響されていた。

中国法典の儒家化、或は経書化の傾向の研究は、法制史研究の重要テーマである。制度化された贈賻は、春秋戦国時代の喪葬儀礼に源を持ち、その後、儒家礼典にとり入れられ、儒家凶礼の一部となる。そして、漢代になって、贈賻制度は初めて法定化され、その後の変遷を経て、律令制が完備した唐代に至り、国家の律令の一部として体系的な規定が確立される段階に至る。換言すれば、贈賻制度は法定化の過程を経るのであるが、儒家礼典に由来する贈賻が如何にして律令制に基づく国家制度の一つとなっていったかという問題を全面的に把握するためには、歴代の贈賻制度のあり方を具体的に検討しなければならないであろう。

本博士論文では、唐以前の各時代における贈賻に関する儀礼・法律、及び贈与の具体的な実例を整理、検討し、それらの制度の実態を明らかにしようとするものである。さらに言えば、本博士論文において、筆者は歴代の贈賻制度の形成や変遷の解明を通じ、従来儒家の凶礼に由来するとされる贈賻の贈与が、如何にして律令体制下における国家制度の一環となったのか、本来人間関係を繋ぐものであった贈賻が、どのようにして国家と官員・皇帝と臣下を結び付ける役割を果たすようになっていったのか、などの問題の解明をも目指したいと思う。